

平成18年度第1回九州ブロッククラブ育成推進協議会 報告

日時:平成18年7月15日(土) 13:00~17:00

会場:グランメッセ熊本 大会議室

平成18年7月15日(土)に「第1回九州ブロッククラブ育成推進協議会」が熊本県において開催され、日本体育協会から2名、地方企画班員6名、各県体協担当者・クラブ育成アドバイザー・育成指定クラブ関係者58名の総勢66名が参加しました。全体会では、「卒業クラブ(育成指定終了クラブ)の“いま”」を基本テーマとして、熊本県内の5つのクラブ(南関すこやかスポーツクラブ、元気・夢クラブ、中央ふれあいスポーツクラブ、東部地域総合型スポーツクラブ、西部総合型地域スポーツクラブ「スポレクエイト」)の関係者に、クラブ設立までのプロセス(困難な状況や悩み、課題等)とクラブ設立後の運営状況(人づくり、魅力ある事業づくり、財源確保等)の2つの視座から情報提供をして頂きました。その後のグループ・ディスカッションにおいては、参加者が興味のあるクラブを選び、5つのグループに分かれて熱心な議論が展開されました。

【1】全体会報告(報告:高橋 健 九州ブロック地方企画班員)

全体会は、九州ブロック地方企画班の高橋班員をコーディネーターとして、各クラブの代表者に、クラブ設立のきっかけ、人づくり・組織づくり、魅力ある事業づくり、財源確保といった4つの観点について、対話形式で進められました。

第一に、クラブ設立のきっかけについては、どのクラブも、「スポーツをしたくても時間がない」「地域の大人と子供が触れあう機会が減っている」「小学校から継続してできるスポーツ環境づくりをしたいという思いがあった」「行政関係団体等から要請があり、スポーツ振興計画にもあるから」など地域生活課題(特に子どもの問題)やスポーツ振興課題が設立契機となっていました。

第二に、人づくり・組織づくりについては、各クラブの状況は多岐にわたっていました。南関すこやかクラブでは、指導者募集を行ったが当初7名しか集まらず、苦労したが一人一人に話をして指導者を集めた。中央ふれあいスポーツクラブでは、校区内だけでなく、校区外からの指導者を確保している。東部スポーツクラブは、会員募集と同時に、スポーツ指導協力者や事務運営協力者を募集した。西部スポーツクラブは、現在、校区体協長をはじめ、市体育指導委員を中心に30名程度のスタッフが活動中で、事務局スタッフ・リーダースタッフが徐々に増加中であり、今後は研修会を実施し、クラブ独自資格等の付与を検討していく予定である。ということでした。元気・夢クラブは、町村合併があり合併する町の人達にも声をかけたが、もともとスポーツ活動の盛んな地域のため、町の人達の協力はあまり得られず、現在も中央町の準備委員会メンバーで活動をしているということです。



第三に、魅力ある事業づくりについては、財源確保との関連性もあり、各クラブともいろいろなアイデアを出して頑張っています。例えば、南関すこやかクラブでは、登山ツアー(阿蘇高岳、鴉帽子山)、柔道中学校合同キャンプ、ソフトテニス小学生・一般交流試合、水泳冬季練習、ゴルフ交流ラウンド、バレークリスマス会、柔道クラブ節分のまめまき会などの多彩なスポーツ事業を展開しており、特に登山クラブは非常に人気が高く、イベントを開催すればすぐに定員になるということでした。元気・夢クラブは、今後、生涯学習の分野についても拡大していこうと考えています。中央ふれあいスポーツクラブでは、熊本県は小学校でも部活動が盛んに行われているため、部活動にない種目や1~3年生までをターゲットとしたプログラム(キッズサッカー・陸上競技)を開発しており、今後、文化的な教室や高齢者を対象にした「筋力アップ教室」を開発したいということでした(現在、ヨガクラブの人気がある)。また、事務局が学校内にある東部スポーツクラブは、設立準備段階で“東部スポーツクラブ宣伝隊”と称し、東町中学校フェスティバルにて“ぜんざい”の販売によるPR活動を展開し、今後は施設の有効活用方策として視聴覚室・パソコン室を使ったプログラムの展開を検討し

ているようです。西部スポーツクラブは、今年度はスポーツ活動だけでなく、熱中症予防講演会や、救急法およびケガの予防等のセミナーを開催することを計画しているということです。

ここで、高橋コーディネーターより、今、地域でもっとも盛んに行われているのが「ウォーキング」であるため、ウォーキング愛好者がクラブ入会するための付加価値をいかに考えていくかが今後は大切ではないだろうか、という問題提起もありました。

最後に、財源確保については、南関すこやかクラブでは、現在、町の補助金に頼っている状況であり安定財源の確保が必要不可欠であるため、魅力あるクラブづくりをして会員の更なる拡大を図るとともに、会費収入だけでは、クラブ運営は困難であるため、NPO 法人格の取得などを検討していく必要を感じているということでした。元気・夢クラブは、今年度中に年会費を安く設定し、講座ごとに月会費をいただくシステムに変更することを考えているようです(現在の案では、年会費が2,000円、月会費は200円~2,400円程度にする予定)。

中央ふれあいスポーツクラブは、荒尾市所有の梅ノ木40本程度をクラブで借り受け、梅ノ木の剪定・消毒、収穫および梅漬けを当クラブで実施し、青梅を販売し、少しでも財源の足しにしており、今後は「からいも」を販売できたらと考えているようです。東部スポーツクラブは、熊本市より夜間開放委託料(225,000円×11ヶ月=2,475,000円)を頂いているということでした。西部スポーツクラブは、年会費を必要最低限度に抑え(一般=年会費3,500円・保険料1500円の計5,000円、中学生までの会員=会員証500円・保険料1500円の計2,000円)、クラブに入りやすい状況を作り、種目別プログラム参加時においてチケット制(100円/1回)を導入した活動を行っているようです。

【2】 グループ・ディスカッション報告(報告;各地方企画班員)

<第1グループ:南関すこやかスポーツクラブ(進行・報告;中平稔人)>



第1グループは、南関すこやかスポーツクラブの城野氏の事例発表を受け、質疑応答からディスカッションを行いました。ディスカッションでは、体協と総合型クラブの関係をどのように捉え、両者が連携して住民に対してより良いスポーツ環境をどのようにして提供していくか、その考え方について協議しました。また、公的でも私的でもない「公益的」クラブの存在意義を示していくことが、会員の確保や安定財源の確保に繋がるのではないかとまとめられました。

<第2グループ:元気・夢クラブ(進行・報告;北野隆行)>

第2グループでは、ディスカッションとなり以下のような意見が出されました。

地域の体育協会加盟団体に総合型の趣旨がまだ理解されていないため指導者の確保が難しい。スポーツが盛んな地域は既存クラブの取り込みは困難なため、スポーツをしていない人を対象にクラブ入会を進めている。

行政担当者等総合型クラブについての理解度に差があるため、各県単位で担当者会を開催して、意識づけをする必要があるのではないかと。将来的には、自主運営をしていかなくてはならないが、まだ行政との関わりをもっていかないと厳しいものがある。また、自主運営をすることになっているが、補助金や助成金なしで本当にクラブ運営をやっていけるのか?どこの市町村も財政が厳しいのは理解している。

会員と非会員それぞれの医療費の状況を何らかの方法で取り込んで、それを市町村の財政担当者に提示して補助金または助成金の確保を図ることは考えられないか。



<第3グループ:中央ふれあいスポーツクラブ(進行・報告;土谷忠昭)>

第3グループでは、参加者の自己紹介の後、中央ふれあいスポーツクラブの上田氏への質疑を通じて、全体的な課題解決策を協議しました。上田氏は、「これまでの講習会等では、総論的な指導やア



ドバイが多く、実践的なものが少なかったので、私のクラブ設立までの実践例を参考にして欲しい。」と強調されました。

どの参加者も、クラブ設立後の運営に不安を持ちながら、設立準備を進めている状況にあるようで、全体的に組織整備(指導者を含めた人づくり)、財政面の確立方策、施設の効果的利用等が課題として浮き彫りにされました。しかし、創設当初から理想的なクラブ運営は不可能であり、身の丈にあったクラブからのスタートを切りながら、みんなの手で課題解決を行うことで良い解決策も生まれてくるということを共有することができました。

<第4グループ:東部地域総合型スポーツクラブ(進行・報告;谷口勇一)>

第4グループでは、東部地域総合型スポーツクラブの徳永氏の発表について議論を深めました。東部スポーツクラブの最大の特徴は、クラブ域内の小学校に事務局を設置していることです。徳永氏は、「自身が学校事務職員であった経緯もあり校長、教務主任、さらには教育委員会担当者との交渉が比較的スムーズに行えた」とのこと。その後、「教育委員会・学校に総合型クラブとの関係を強めてもらうシステムをつくってもらうためには」という議論がさかんに展開され、「まずもって、総合型クラブ関係者の将来構想に『子どもたちにとってより望ましいスポーツ環境』という発想が共有され、各種関係機関・団体(行政)に対して具体的な要望をしていくべき」ことの重要性を確認しました。



<第5グループ:西部総合型地域スポーツクラブ「スポレクエイト」(進行・報告;中西純司)>

第5グループでは、参加者の自己紹介の後、スポレクエイトの松永氏への質問から始め、主として、「施設利用に関する既存クラブとの調整が難しいのはなぜなのか」や「会費設定の考え方と施設利用チケット制のあり方」について質問が集中しました。松永氏が質問に的確に回答する一方で、なぜこうした問題や課題が生じたのかについて、参加者全体でクラブ設立プロセスに視点を向けながら討議しました。



その結果、クラブ育成の範囲が2中学校(8小学校)区とかなり広範囲であるために、クラブ設立に対する住民の共通理解があまり得られていなかったということが分かりました。いわゆる、「的確なゾーニング(地域割り)」と「クラブ設立への共通理解の獲得」の重要性が指摘されました。次に、会費の意味や考え方について議論し、会費はクラブ運営費で

あるとともに、「地域づくり」や「施設づくり」のための費用でもあるという考え方から、的確な会費設定を行うことが重要であるということが分かりました。

[3] まとめ(報告;中西純司)

第1回クラブ育成推進協議会では、「卒業クラブの“いま”」というテーマで熱心な議論が展開されたように思います。特に、それぞれのクラブが地域の実情や課題・問題点に対応できるような特徴を出しながらクラブ運営をしていることが、参加者全体で共通理解できたことと感じております。私自身、「クラブづくりとは、地域住民の情熱・熱意(パッション)がクラブの使命(ミッション)に転換され、そうしたミッション実現のためのクラブ育成計画の基に具体的な行動(アクション)を起こしていく過程(「変革型」の社会運動)である」と、改めて認識できる、有意義な協議会であったと思います。

(全体調整・報告:九州ブロック地方企画班長 中西 純司)